

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 87 号
2013年12月



高松山・蛾嶺山ハイキングコース 晩秋の里山観察会に参加して 松井 さき子

西の山々には雪が降り、今日は晴れの予報、絶好の登山日和。小鳥の森 P 集合。2台の車に分乗し、いざ観察会に出発。10分ぐらいで出発点の鹿島神社に到着した。水かけ祭りで知られる神社(私は近くに居て知らなかった)その裏に回り、西日、風よけに植えられたという常緑樹はシラカシ(ドンダ)何年経ったのだろうか。けっこう太い木だった。移動し、晴れているのに寒く、ダウンを着ていた方がうらやましかった。

神社から登山口までの道端、秋の終わりで色とりどりの木の実が付いていた。花は見たことあるけれど実を見たのは始めてだった。ヒヨドリジョウゴ、イヌホオズキの実だった。少し道を外れ、奥に入ると、小さな池、その周りには紫色の実。オオバジャノヒゲ、黒い実のヤブラン、葉が少し太めだった。同じ場所に沢山植生していた。

これから登山口という所で、福島山には多くは見られないというナツハゼ、実をつけており、浜の方ではヤマオトコと言うとの事。私にはヤマオトコの方が馴染みだった。20年も前に親戚の家の庭にヤマオトコの木が何本も植えて置かれ、その実を摘んで果実酒を作った。凄くきれいなワイン色で美味しかった覚えがある。

しばらく進むとナガバノコウヤボウキ、オケラが出てきて、花も終わり茶色に枯れて、何とも言えない黄褐色だった。沢山ありオケラロードだった。良く観察すると包葉は魚の骨になっていると聞き、渡辺さんはルーペで観て、頭も



落葉のパッチワーク



ヤマオトコ

付いていると大笑いした。観ると本当に細かく美しかった。こういう細かい所まで観られるのも観察会ならではのですね。

気になったのが、同じ枝(木)なのに葉の形が微妙に違い、葉が出て生長し、最初に出た何枚かの葉は栄養生長期の葉で、その後に出た葉は生殖生長期の葉と説明を受けた。びっくりさせられ、なるほどと思った。

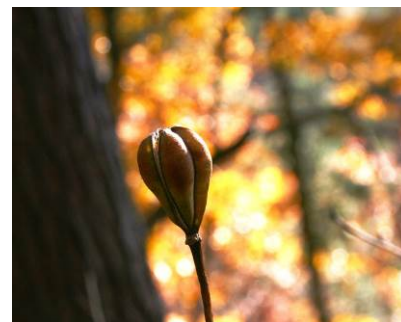
高松山頂上は松の木で眺めはあまり良くなく奥の院が祭られていた。

そろそろお腹も空いてきたが、峨嵋山の方が眺めが良いので、そこで昼食にしようという事になった。山頂を後にし、水かけ祭りの発祥地の杵沼(きぎぬま)に着いた。涌き水でも出ているのだろうか？小さな池があった。近くにカマツカと言う聞き馴れない真赤に色づいた葉と、赤い実が付いた木が、ウシゴロシとも言って、木が硬く、ウシの鼻輪に使われているのだとか！又、カマのツカに使われていたそうだ。枝を見ると先の方は互生の葉、下の方は互生だが輪生状に付いていると説明を受ける。

観察会の楽しみの昼食は峨嵋山の頂上で、今まで寒かったが、暖かい岩の上で、信夫山、吾妻山、弧を描いていた田畑は昔の阿武隈川だったという広大な景色を望み、昼食を広げ皆で頬張った。満腹だった。

山を下りると今日は総会、もちづり学習センターに移り、来年の活動計画の件、場所変更等で盛り上がり、時間を延長する程だった。

今日の観察会、振り返ると、こんな近い所にこんないい山があり、植生も豊富で、季節を変えて、又登ってみたいくなりました。



ヤマユリ



高松山全景

高津森山と旧米沢街道観察会

佐藤久美子



高津森にて

9月29日(日)快晴の中、11名(男4、女7)の参加者で、観察会が行われました。今回は、高津森山(21世紀森計画の荒廃ぶり)と旧米沢街道を訪ねるコースです。お昼は、恒例の芋煮付きです。

歩きだして直ぐに、「21世紀の森」と書かれたかなり大きな看板が現れました。今は、錆ついて朽ち果て、見る影もない状態でした。市民が、働いて納めた税金で作られたものでしょう。もう少し、大切に活用してほしいです。登山道は、送電線の下なので、下草がすっきりと刈られていました。道幅も広く快適です。足元には、秋の草花が競演していました。しばらく、登るとミツバアケビの実が、道の両側の手の届くところに沢山ぶら下がって成っていました。中には実が割れて、食べごろのものもあり、美味しそうです。放射線が無ければパクリと味見をしたい所ですが、今は、叶いません。福島 of 厳しい現実です。

秋の木の実も、沢山観察出来ました。クリ、ミズナラ、ミヤマガマズミ、オトコヨウゾメ、ヒメアオキ、アオハダ、リョウブ、ツノハシバミ、チゴユリ、ヤマブドウ、クロモジ、マユミ、ツルウメモドキ、キツタ、サルトリイバラ、全部で20種以上ありました。果実の色は、赤色、オレンジ、黒色と美しい。その中でも、サワフタギの藍色、青色の実は、大変綺麗だ。ツリバナのガクが5つに割れて、中からオレンジの種が先端にぶらさがるとは、可愛らしく、ツルリンドウの実は、濃い赤色で宝石の様にピカピカと光っていました。この森は、1回伐採された2次林なので、ミズナラ-クリ林です。



最高の芋煮

山の中腹で、1本のブナの木を発見しました。切られずに残っていたようです。見上げると、真っすぐに枝を伸ばしていました。このまま元気に育ててほしいと思いました。

高津森山頂上に着いたのは、お昼少し前でした。正面に、栗子スキー場が望め、吾妻山は、頭を雲に隠していました。芋煮の場所までは、未だ未だ先なので、下



センブリ



サワアザミ

りは、ピッチを速めて歩きました。芋煮は、材料を下茹でして来たので、あっという間に2鍋が出来あがりました。酒粕入りの方が、風味もコクもあり、とても美味かったです。(特別なダシが入ったし)。暑い日差しを避け、車の陰で皆でワイワイと楽しく頂きました。御馳走様でした。最近、職場でも芋煮会は無いので、年1回のこの時間は、大変貴重です。

お腹を一杯にして、いざ旧米沢街道へ出発です。今から、400年前上杉家の参勤交代に役割を果たした街道です。大きな石畳みが、あちらこちらに残っていました。李平(すももだいら)宿には、かつて、宿場町として、52戸の家が建ち並び、賑わっていたらしい。その場に立つと、平らな土地が広がっていました。今は、杉林とシダに覆われてしまいました。桜の木も植えてあり、昔は、皆で花見をしたのだらうと想像出来ました。街道わきには、サラシナショウマやサワアザミ、ヤマトリカブトが花を咲かせていました。

今回の観察会では、秋の草花と木の実の美しさを堪能出来ました。有難うございました。さて、観察会で、わからなかった事を調べて見ました。タムシバの実は、どうして、直ぐに種を地面に、落とさずに、白い糸を伸ばして赤い種をぶら下げているのか?それは、「大きな鳥たちにアピールして、種を食べてもらい、遠くへ運んでもらう為である。鳥が種を食べている姿が良く目撃されている」と書かれていました。本当に、自然界は、自分の子孫を残すのに最大限の工夫がされている事に、感心しました。



ツリバナ



サワフタギ



クサギ

アカタテハ

鎌田和子

9月中頃のこと。つい先日まで草ぼうぼうだったサイクリングロードの土手の草が、きれいに刈られていました。サイクリングロードが歩きやすくなったと、たいていの人は喜ぶのですが、私はガッカリします。なぜって、そこの草むらに、もうちょっとで羽化する蛹があったかもしれないのです。モンキチョウやベニシジミの幼虫がいたかもしれないのです!でも、次の瞬間に、あっ、そうだ、そういうことに悩まないことにしようと思ったんだと思い出しました。阿武隈川は一級河川。その保全管理のために請負業者が草を刈る。その度に、そこに生息している小さな生き物が…なんて、もう悩まないことにしよう、私はそう決めたのでした。頭をぶるっと振って、歩き出しました。

けれど、「月の輪大橋」近くのヤブマオが刈られてしまった(写真①)のを目にして、平静でいることはできませんでした。ヤブマオはアカタテハの食草なのです……。「あ～あ、アカタテハもダメかあ!」とため息がでました。が、すぐに、「ヤブマオって、伸びるのが速いんだ…そうガッカリしなくていいのかも…」と気を取り直し、かがんでよく見ると、ヤブマオの新芽が伸びているではないですか。河川敷に下りて、土手の斜面を見上げると、そのヤブマオの上を、ひらひら這うように蝶が飛んでいました!アカタテハが卵を産みつけているにちがひありません。飛び去るのを待って、ヤブマオの新芽をルーペで覗くと、萌葱色の卵が光っていました。毎年、この土手のヤブマオに、写真②のようなアカタテハの幼虫の巣が見られるのは、『草刈り』に遭っても、すぐにヤブマオが伸びて、タイミングよく産卵するアカタテハがいたということ!?危うい、すれすれのところで命が継承されてきたということなのでしょう。

その後、台風がきました。あの土手のヤブマオは、まだ背丈が低いから風に倒されはしないと思いましたが、台風の翌日に、念のため、見に行ってみました。思ったとおり、しゃんと茎が伸びて、新芽にアカタテハの巣が作られていました。それから数週間がたった頃、「あのアカタテハの幼虫は大きくなって、さぞや大きな隠れ家を作っていることだろう」と、ウキウキ観察に出かけました。ところが、様子がおかしいです。背丈の伸びたヤブマオに、アカタテハの巣がいっぱい下がっている光景をえがいていたのですが、そのヤブマオがない!どうして?…近づいて見ると、ヤブマオは倒れていました。茎に葉がついていません。ナンデ、ナンデ!?訳が分からないまま、倒れた茎に、かろうじて残っているアカタテハの巣を覗くと、空っぽです。あちらのは?…これも空っぽだ!…全滅?…どうしてこんなことに?……、探して探して…やっとのこと、難を逃れた幼虫を見つけました。Jの字形の幼虫が巣の中にいました!何令になっているかは分かりません。大きく成長した幼虫



クサギ草を刈った後に伸びてきたヤブマオ



クサギアカタテハの隠れ家(幼虫の巣)

です。生きている！そのまま、そっとしておくのがいいのです。でも、ヤブマオの葉がなくては…食べることもできず、新しい隠れ家も作れないのでは…と、幼虫を保護するいわけをしながら、そっと連れ帰りました。

さて、保護しようと連れてきたのはいいけれど、わが家の庭のヤブマオのところに置いておいたのでは、すぐにカエルの餌食になってしまう。考えに考え、ヤブマオを花瓶に差し、それを柵で囲い、グリーンで覆いました。すると、アカタテハの幼虫は、庭のヤブマオから切ったばかりの新しい茎葉に移り、葉の上をゆうゆうと這い回り始めました。巣作りにかかるのだなと思って見ていると、なんと葉をムシムシ食べ出しました。えっ！？これはびっくりです。ここ数年、私がアカタテハを観察した範囲では、たいていの幼虫は新しい葉に移動すると、すぐに巣作りを始めるのでした。私は、幼虫のその行動を、外敵から身を守るためにいち早くやらねばならないことなのだと思っていました。なのに、この幼虫はいっこうに巣を作ろうとしません。お腹がいっぱいになったら巣作りに取りかかるのかもしれない。そう思って、今日は巣を作ったか、今日こそは作ったか、と毎日見ていました。が、アカタテハの幼虫は、そのまんま、姿をさらしたままです。まるでグリーンで囲いを自分の巣と錯覚しているかのようです。そして、驚いたことに、数日後、囲いのグリーンで、前蛹スタイルになっているではありませんか！そして、そのまま蛹になってしまいました(写真③)。

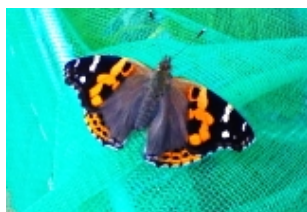
アカタテハの幼虫をグリーンで囲うと、巣作りしなくなるの？そんなことが起こるなんてこと、生態図鑑に載っていません…。別の幼虫でも条件が同じなら、こんな珍しい行動を取るのでしょうか。この現象はこの幼虫だけのものなのでしょうか。その興味はさておき、蛹は、前蛹から2週間めの10月21日の朝に羽化しました(写真④)。翅を広げたアカタテハの姿を撮るのは無理かなと思いましたが、飛び立つ前に写真におさめることができました(写真⑤)。アカタテハのことを、英名で、「Indian Red Admiral(インドの赤い提督)」というそうですが、グリーンで囲いの中の行動は、提督なればこそでしょうか。何はともあれ、無事に羽化して飛び立ったことにホッとしました。(2013.10.24)



アカタテハの蛹



「翅の裏側」の複雑な模様と色合い



クサギ表の翅は「インドの赤い提督」にふさわしい？

高山の原生林を守る会1.2013年活動報告

2013年11月24日(日) 午後13:00~15:30 福島市東部学習センター

月日	内容	参加人数
2月24日(日)	第126回 安達太良県民の森雪上観察会	中止
4月14日(日)	第127回 小鳥の森・スプリングエフェメラル観察会	23名
5月12日(日)	第128回 斜平山自然林観察会	12名
6月22日(土)~ 26(水)	いがりまさしと仲間たちによる写真展:いがりまさし写真展『みちのく森の絆』&高山の原生林を守る会写真展『福島県のスマイル』	閲覧者 850名
6月23日(日)	西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランティア(NF米沢と共同)	7(+8)名
7月7日(日)	第129回 駱駝山・コメツガ林の美滝と夏の山岳植物観察会	10名
7月24日(水)	西吾妻山城登山道保全環境省東北地方環境事務所裏磐梯自然保護官事務所申入れ	2名
8月10日(土)	NF米沢高山アヅマホシクサ観察会	1(+8)名
8月18日(日)	弥兵衛平湿原植生回復事業第一回採種作業	1名
9月14日(土)	霊山、野手上山空間線量調査(学習院大学・村松教授同行)	3名
9月29日(日)	第130回 高津森山と旧米沢街道観察会	10名
10月29日(火)	福島県における地熱資源開発に関する情報連絡会(第4回)	2名
11月2日(土)	西吾妻登山道誘導ロープ取り下げボランティア	5名
11月24日(日)	第131回 高松山・里山陽だまり観察会・総会	

平成25年高山の原生林を守る会会計報告書(11月21日現在)

収入決算額 292,860円 支出決算額 111,113円 平成25年度決算額 181,747円(次年度繰越金)

2011年3月11日の震災で、私の住む新地町は大津波により甚大な被害を受けました。海岸部3地区が流失し、100名を超える方が亡くなりました。あの年は、盆踊りも秋祭りも一切なく、また何かを祝うような気持ちにもなれず、ただ時間が過ぎていった気がします。被災された方が避難所から仮設住宅に移り住み、今年になってからは、集団移転のための造成地に家が建ち始めました。また、この11月には、家を失ったお年寄りの方々が被災高齢者共同住宅へ入居されました。狭く住み辛い仮設住宅から快適な新住居へ引っ越すことができたのを同じ町民として喜んで

います。
先日、どうしているのかなあと気になっていた方に、偶然出会いました。震災前に奥様を事故で亡くされ、この津波で家を流されたのです。風の便りに、鬱病のような状態であるとか、仮設に一人暮らしをしているとか聞きました。一回り小さくなられたような気がしましたが、穏やかな笑顔でした。最近、家を建て、息子家族と暮らし始めたということでした。「いやあ、2年半は長かったなあ。長すぎた。」とおっしゃっていました。心労は測りしれませんが、新しい生活に、前向きに歩んでいるようでした。

10月の回覧板に秋祭りの案内がありました。「震災後初めての地区秋祭りになるので、ご協力・ご参加の程よろしくお願いします。秋祭りでは愛宕神社の神事、御神輿渡御行列、町多目的集会所では出店や芸能祭を行います。」という内容でした。

11月3日に花火の合図と共に秋祭りは行われました。私は今年度、班長当番なので受付の役を仰せつかりました。集合場所の愛宕神社に行ってみると、20代～40代くらいの御神輿の担ぎ手が沢山集まっています。若い禰宜様がいらしゃって祝詞を上げられました。先代の孫息子がこの度新しく神官職を継がれたということで、神事を行うにも、初々しさを感じられました。神事が終わる頃に、賑やかに子ども達がやってきました。この地区の子供会でした。小学生と、母親に手を引かれるような保育園児も中に入っていました。下の公園で神事が終わるのを待っていたようでした。子ども御輿を担ぐために、法被を来て豆絞りの鉢巻きをし、出番を待っていたのです。少々待ちくたびられたようでしたが、大人には御神酒、子供にはジュースが配られるとニコニコしていました。

我が家の二人の息子も、ずいぶん昔のことになるけれど、こうやって子供御神輿を引きに来ました。大人の御神輿の後について、町内を練り歩くのです。町内にはあちこちに御神輿の休み所があって、大人には御神酒が振る舞われ、子供にはジュースやお菓子が配られました。「ワッショイ、ワッショイ！」と大きい声を出して一周すると結構疲れたのを感じています。子どもが中学生までは、子供会の世話や部活動の世話などで地区のお母さん達とも話す機会が多かったのですが、今回は顔見知りの方はいませんでした。そして自分の住む地区には若いお母さん達や子ども達がたくさんいることに驚きました。町中に子どもの元気な声が響くのは良いものだと思います。

私は、集会所で受付の仕事を始めました。地区の80歳以上の方は秋祭りにご招待されていました。腰を曲げながら、あるいは杖をつきながらも皆さん歩いてこられました。髪や身支度などもきちんと整えられていました。この秋祭りを楽しみに待っておられたのでしょうか。御祝と書かれた熨斗袋をいただき、名前を確認したり、席に案内したり、お赤飯や婦人会で作った豚汁を出したりと、忙しく働きました。集会場は満員になりました。集会所のステージでは踊りや民謡の発表、ハーモニカクラブの演奏等が披露されて、芸達者な方が大勢いるのに驚かされました。手拍子や掛け声が飛び交い賑やかな芸能祭となりました。

震災・大津波という災害があり、この町の将来はどうなるのだろうと思いましたが、こうしてみると、御神輿を担ぐ若い世代もいるし、保育園児や小学生が集まって「ワッショイワッショイ」と子供御神輿を担いで回るし、お年寄りもご招待を喜んで集まってきています。2年9ヶ月は停滞していたのではなく、日々新しく動いていたのだと思いました。人は大きな時の流れに乗って生き、休むことは無いのかもしれない。

80歳を過ぎた父は「生きでいればいろんなごどに遭う。これまでだって色んなごどがあった。戦争もあった。立ち退きもあった。これがらだって、何あつか分がね。おどろくな。」と、こう言っています。何があっても生きているものは知恵を出し、協力して日々を暮らさねばなりません。秋祭りの最後に区長さんが「皆様のご協力のお陰で良い秋祭りになりました。ありがとうございました。」と言っておいででした。私も班長としての役目を果たし、ほっとしました。



御神輿魂入れ



御神輿の担ぎ手達



子供御神輿の担ぎ手達

東北70紀行(52)「大震災が教えてくれたもの」IX

奥田 博

今回は「原発の話」に戻ります。それは廃炉に向けた第一歩、燃料棒の取り出し～極めて危険な作業～が始まったので、その辺のお話をしておきたいと思った次第。不定期に「原発」テーマに戻ることをお許しください。

先月、久しぶりに浪江町境界の手倉山を歩く機会がありました。葛尾村役場の東側から県道に入ると、住民の姿は見えないが除線作業に取り組む人と作業車で活況を呈している。古道ダムの分岐で車は通行止めの看板と柵に遮られる。ここからは、高瀬川に沿った道を歩く。何も変わった様子も無く、平和な風景に見える。ひと気のない人家が現れると周囲の草木はキレイに取り除かれているが、おおよそ $1\mu\text{Sv/h}$ 前後の数値で推移している。大きくカーブすると、手倉山の急峻な山が見えてくる。放棄された田畑ときれいに刈られた庭が寂しい前景だ。登山口の鳥居の脇には、立派な道標が建っている。登山道を入ると、葉を落とした明るい雑木林が美しい。尾根に出ると、太いアカマツやコナラ、常緑のアセビが多くなる。線量が急に増えたのは、山頂神社の真下、丁度南からの登山道との合流地点だった。 $4\mu\text{Sv/h}$ 程度ありホットスポットだろう。枝越しには第一原発の5・6号機が見える。神社裏の岩場で北東側の展望が得られ、人の居ない空間が広がっている。この岩場の線量は低い。ここから奥のピークへ登ると、青い海と第一原発の5・6号機が、しっかりと眺められた。何ともやりきれない風景だった。

東京電力福島第一原発4号機の使用済み核燃料プールからの燃料棒取り出し作業が、11月18日午後から始まった。報道の多くは、東京電力の発表した資料を元に、「廃炉へ新段階」と報じている。実は今回の作業にはとてつもない危険がつきまとっている。4号機は1～3号機とは違ってメルトダウンは起きていない。しかし、水素爆発で破壊された建屋上部にある燃料プールには、1533体の燃料棒が残されたままになっている(うち未使用は202体)。補強された建屋も倒壊する恐れもあり、燃料棒の取り出しは一刻を争う急務でもある。

とはいえ、事故を起こした原発での取り出し作業は世界初のことで何が起こるかわからない。当然ながらリスクもわからなというのが正直なところ。作業工程としては、①燃料棒を水中から取り出し、②4.5メートルもの長さのある燃料棒が入るキャスクとよばれる金属容器に収納し、③大型クレーンで吊り上げトレーラーに運ぶ。④再び仮置き場の水中へ格納する。この極めて微妙で複雑な作業を不安定な状態の中、作業員の経験と勘だけで進めなければならない。仮に燃料棒がちよっとでも水中から露出したら、それだけで作業員は深刻な被曝を覚悟しなければならないという。

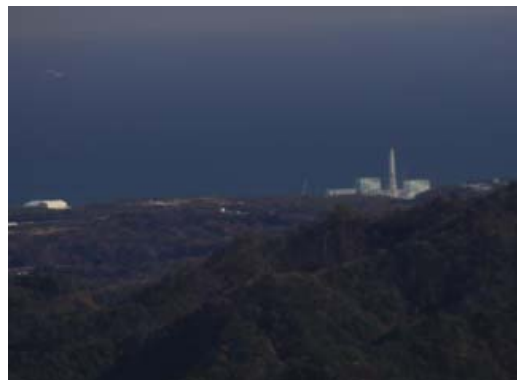
もっとも恐ろしいのは、クレーンからのキャスクの落下である。22体の燃料棒がギッシリ詰まり、約100トンもあるキャスクが地上に落ちれば、想像を絶する事態になる。作業員が近づくこともできないまま、大量の放射性物質が大気中に放出され続けることになるというのだ。

東電によると、1533体の燃料棒の取り出しは2014年末までかかるという。つまり、こんな危険な状態が一年以上も続くというのだ。現政権も東電も、「事故は起きない」という根拠のない“安全神話”を前提にして作業を開始した。

にもかかわらず、事故を前提とした大規模な避難計画は示されていない。12月12日、初めて原発構内作業員及び避難地区に一時帰宅している双葉町と富岡町の住民(作業員+住民5000人超)の情報伝達訓練が行われたと報じられた。放送や携帯電話による情報伝達は確かに大事だ。しかし世界で誰も経験したことのない「超危険作業」が手探りで始まったことを自覚して避難訓練を行うべきだろう。昨年号でも述べたことを繰り返して終わりたい。帰宅を進める自治体、区域外の自治体も同様、何の訓練も行なわれてない。近隣のいわき市、南相馬市、双葉郡各町、相馬市、新地町、川内村、葛尾村、田村市、、、最悪は東京や仙台だって風向き次第では射程距離なのだ。この燃料棒取り出しを機会に取組んで欲しいと切に願う。



除染袋の向こうに手倉山



第一原発4・5号炉が見えた

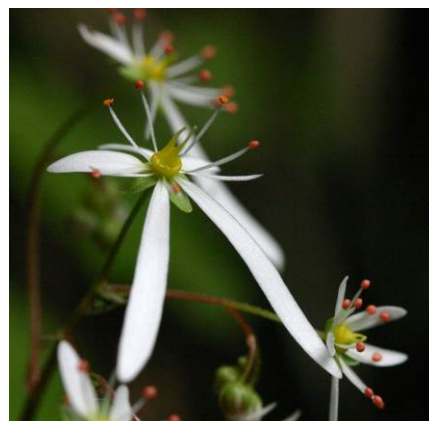
ダイモンジソウ (*Saxifraga fortunei* var. *incislobata* ユキノシタ科ユキノシタ属)

ブナ林の沢辺や岩崖に植生する多年草。分布域は広く、吾妻・安達太良連峰に植生する同属のフキユキノシタ、クロクモソウとは対照的である。変種名は浅く切れ込んだ裂け目の意味で、水辺の岩壁の割れ目を縫うように根を張ることを表している。根は分岐しない。別名をイワブキという。これは植生地と葉の形状からつけられた。山野草として山採りされることが多く、自生地の消滅が懸念される。種子で繁殖する。

葉は根生葉のみで、長い葉柄を延ばす。葉は肉質で水気が多い。葉形は、腎円形で葉幅の方が葉長より長い。葉の基部はハート状、掌状葉で5~17に浅く裂ける。裂片の先端は、粗い鋸歯がある。葉の形状には、変異が多い。葉身には粗い毛がある。高山型のミヤマダイモンジソウの葉は毛がない。葉の裏側は、白色か紫色を帯びている。

花は、根生葉の間から長い花柄を伸ばし、円錐状に分岐し小花を着生する。花柄には点状の腺毛がある。ガク片、花弁は5枚で、上部の3弁が短く、下の2弁は長い。下部の弁は片方が特に長い場合がある。雄しべは10本で葯は赤い。雌しべは2心皮性で2本の花柱を持つ。

2010年夏、観察会の下見で和重さんと的場川を遡行した。遡行は高山スキー場反対運動当時以来であった。当時は、1985年の8.5大水害から2年が経過していたが、F1を超えると、沢床は流木が散乱し、累々とした岩塊と土砂に埋もれ、沢水は伏流水となっていた。自然のエネルギーのすさまじさに圧倒された記憶がいまだに消えていない。出会いからF1までは岩塊を縫うような沢が続き、その当時と変わらない光景が広がっていた。F1は、直登した記憶があったが、足回りはウエディングシューズから長靴に変わり、20数年の月日の経過により、バランス感覚も低下しており、今回は右岸を高巻することとなった。急傾斜を、樹木を頼りにトラバースして降りた滝上部は、記憶に反してダイモンジソウの大群落で飾られた美しい滑床となっていた。その群落から上部の的場川は流木も土砂も既になく、静かな水の流れが続き、自然の治癒力の大きさを実感しながらの遡行となった。遡行を途中で切り上げ、再び眺めたダイモンジソウ大群落は自然の治癒力を象徴しているように映った。



カニコウモリ (*Parasenecio adenostyloides* キク科コウモリソウ属)

亜高山針葉樹林の林床に植生する多年草。日本固有種。安達太良山では確認されていない。吾妻・安達太良連峰に植生する同属の植物にはオオカニコウモリ、イヌドウナ、モミジガサ、タマブキがある。オオカニコウモリはブナ林の沢沿い、モミジガサ、イヌドウナはブナ林下部、タマブキはミズナラ林の湿った林床に植生する。

葉は互生で、通常3枚着生する。下部の葉は大きく、葉柄が長い。葉形はカニの甲羅に似た形状で、中央の鋸歯が尖るように突き出ており、左右を不規則だがリズムカルな鋸歯が縁どっている。葉の基部はハート状にくぼむ。葉の色は明るい緑で、葉身は無毛、葉脈が多角形の網目状に走る。葉柄は茎を抱かない。オオカニコウモリは葉裏に屈毛が着生する。

花は頂性、茎の先に大型の円錐花序を形成し、花茎の片側に総状に小花を着生する。花茎は濃い赤紫に染まり、黄色の屈毛が着生する。総苞は筒状で、総苞片は3個。小花は筒状花で両性花である。花色は白。花冠の先端は深く5裂し反転する。柱頭の周りに赤紫色の雄しべの葯が5本着生する。開花すると雌しべは白い柱頭を延ばし、円を描くように2裂する。先端がカール状に飾られた花冠から長く突き出した純白の柱頭の姿が愛らしい。



オオシラビソ林は、林床が暗いためか、大型の花は少ない。オオシラビソ林で群落を形成する大型の草種としてはヒロハユキザサとカニコウモリぐらいではないかと思われる。カニコウモリはヒロハユキザサより更に光条件が悪く、湿ったところで群落を形成していることが多い。これはカニコウモリの葉がごく弱い光でも効率的に光合成を行う能力を持っていること。林床に繁茂するコケが種子の芽生えの生存率を高めていることなどが関係しているらしい。林間を縫うように流れるわずかな風を受けて、小さく繊細な花が点々と揺れる様は、鬱蒼としたオオシラビソ林の中でもたげる不安な気持ちを和らげてくれる。先を急いで素通りすることが、申し訳なく、花の表情をそっと覗いてみると、一つとして同じ姿はなく、美が連鎖するとめどない世界に落ち込むような感覚にとらわれる。

第132回自然観察会案内：高湯-不動沢登山道周辺ブナ林雪上観察会

日時：2014年2月23日（日）7:30～15:00

集合場所 四季の里交差点正面入口駐車場 集合時間 7:30 参加定員 20名

内容 KO山荘に至る登山道の高湯から不動沢の間に広がる冬のブナ林を散策します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋(軍手複数)、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳、冬季歩行用具(スノーシュー、カンジキ、スキー)

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用:保険代(300円)

申し込み:2月22日(土)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

2014年「高山の原生林を守る会」自然観察会計画

回数	月日	曜日	候補地	テーマ	担当
第132回	2/23	(日)	高湯-不動沢登山道周辺ブナ林	雪上観察・雪わっさ	小幡
第133回	4/29	(火)	奥土湯ブナ林	スプリングエフェメラルと巨大ブナ観察	佐藤(守)
第134回	5/25	(日)	古霊山 新緑観察	新緑の巨大ブナ観察	奥田
第135回	7/6	(日)	早稲沢から百貫清水	夏の山岳植物観察	佐藤(和)
第136回	9/28	(日)	龍ヶ岳自然林と鳩峰峠の植林地 観察と芋煮会	紅葉観察と芋煮会	佐藤(久)
第137回	11/30	(日)	狐郷山(川俣)	里山の陽だまり観察	山内
総会	11/30		福島市立子山自然の家		

●代替候補地(観察会候補地は変更になる場合があります):蟹ヶ沢・中吾妻ブナ林・的場川コース

西吾妻登山道保全ボランティア

月日	曜日	山城	作業内容	備考
6月21日	(土)	天狗岩～西大巔	誘導ロープ設置	NF 米沢との共同開催
10月18日	(土)	天狗岩～西大巔	誘導ロープ取下	NF 米沢との共同開催
10月19日	(日)	(予備日)		

天元台ロープウェイの運行時期により変更する場合があります

2014年カタクリの会奥羽自然観察会計画

月日 (曜日)	回数	自然観察会 のテーマ	観察地	
1/19	日	277	冬の廻戸小屋	西和賀町廻戸
2/16	日	278	雪の自然観察	西和賀町沢内志賀来
3/23	日	279	春を探そう	西和賀町川舟
4/27	日	280	カタクリの里歩き	西和賀町内
5/18	日	281	夏椿と夏の渡り鳥	西和賀町白木峠
6/15	日	282	新緑のブナの森	西和賀町真昼ブナ指標林
7/20	日	283	星めぐりの森散策	西和賀町星めぐりの森
8/24	日	284	ブナの森の滝巡り	西和賀町下前風景林
9/21	日	285	木の実ときのこと	西和賀町未来の森
10/19	日	286	植樹と苗作り	西和賀町貝沢・星めぐりの森
11/2	日	287	紅葉と冬の渡り鳥	西和賀町沢内志賀来
12/7	日	288	初冬の森	西和賀町内

- カタクリの会は西和賀町で、自然観察会開催を目的とした会です。
- 誰でも自由に参加できますが、各観察会の1ヶ月前から電話でのみ受付です。
- カタクリ通信を偶数月に発行しており、希望者には年間千円で送付致します。
(郵便振込みをご利用ください:
02350-5-38765 加人者名:
カタクリの会)
- 連絡先: 〒029-5512
和賀郡西和賀町川尻 41-72-15
電話&FAX**0197(82)3601**
代表:瀬川強

新年度の会費納入をお願いします:郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第87号 2013年12月発行

編集・発行:高山の原生林を守る会 HP:<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>

代表連絡先:佐藤守 Phone 024-593-0188 (夜間7時～9時)

郵便振替:02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法:年会費(500円)を添えて上記まで

編集:佐藤・奥田・鈴木